



多文化共生社会の実現に向けた取り組み

三重県環境生活部ダイバーシティ社会推進課 主査 野呂 創史

三重県では100を超える国・地域からの約6万6,000人の外国人住民が生活しています。県内総人口に占める外国人住民の割合は全国的にも高いです。本県では、すべての地域住民がそれぞれの文化的背景を理解し、お互いの文化を尊重し、誰もが地域社会の一員として活躍できる多文化共生社会づくりに力を入れています。今回は2024年度に実施した2つの多文化共生イベントを紹介します。

みえ多文化共生シンポジウム (2025年1月)

国の「ライフ・イン・ハーモニー推進月間」に合わせ本県においても1月を「三重県多文化共生月間」と定め、

多文化共生に関する理解や機運が高まるよう取り組んでいます。その取り組みのひとつとして「みえ多文化共生シンポジウム」を初めて開催しました。

シンポジウムの前半は、外国にルーツのある公立学校の教員による基調講演が行われました。日本語もわからないまま来日して苦勞した自身の経験や、どのように困難を乗り越えたのかについての話があり、夢を簡単にあきらめないようにと若者へのエールが送られた講演でした。その後に行われたパネルディスカッションには、講演者とともにJETプログラム国際交流員(CIR)もパネリストとして登壇しました。異なる文化を持つ人たちが、共に生活し地域社会を築いていくために必要なことを、パネリストと聴衆が一緒になって考える有意義な時間



(1月) パネルディスカッションの様子



となりました。

イベント会場では、県や外国人支援団体がブースを出展し、それぞれの団体と県民が情報交換や交流ができる場所となりました。県のブースでは、CIR が実施している「やさしい日本語出前講座」を周知しました。

多文化共生親子ラグビー教室 (2025 年 2 月)

三重県をホストタウンとするラグビーチームの三重ホンダヒート、そして本県、鈴鹿市、国際協力機構 (JICA) との共催で、多文化共生親子ラグビー教室を実施しました。本県と三重ホンダヒートは、2021 年に、「HOME TOWN 包括連携協定」を結んでいます。このイベントは、スポーツの推進、地域振興、そして多文化共生社会の実現に向けての取り組みの一環として実施したものです。

当日は小雨が降っていましたが、ラグビー教室開始直前に青空が広がりました。三重ホンダヒートの選手と共に、県内在住の日本人親子と外国人親子 17 組 36 人が交流をしながらラグビーに親しみました。ラグ

ビー教室の内容は、ラグビーを経験したことのない親子であっても楽しめるものでした。三重ホンダヒートの選手と一緒に練習ができるという特別な環境のなかで、参加者はわくわくしながらスポーツの楽しさを味わいました。参加者同士で協力して取り組むメニューでは、年齢、性別、国籍にかかわらず、お互いに協力してプレーし、充実した時間を過ごしました。ラグビー教室の終了後、参加した親子は三重ホンダヒートの試合観戦（リーグワン公式戦）に招待されました。世界トップレベルのラグビーの試合を見ながら、日本人親子と外国人親子が地域の住民として交流する時間となりました。

県内の外国人住民数は年々増加しており、出身の国・地域も多様化しています。この傾向は今後も続くと考えられます。日本人住民と外国人住民が同じ街に住むだけでなく、交流し一緒にこれからの地域を築いていく多文化共生社会を実現するために、今後も人と人が交流できるイベントを実施していきたいと考えています。



(2月) ラグビー教室